

社会性昆虫・家族でくらす虫たち

- 期 間：4月16日（土）～5月8日（日）
- 会 場：こんちゅう館内 学習室
- 内 容：社会を作り、家族で集団生活する虫たちについて、標本や生きている昆虫をまじえて展示・解説します。ハチやアリ、シロアリなど、多様な社会性昆虫が大集合。どのような生活をしているのか？なぜ社会生活をするのか？どのように社会性が進化してきたか？等の疑問にせまります。さらに、夫婦で子育てするゴキブリに、キノコを栽培するシロアリ、牧畜を行うアリや、他の昆虫の社会にちゃっかり居座る生き物たちなど、想像をはるかに超える「社会」を間近に見ることができます。スズメバチの巨大な巣や、アシナガバチの和紙細工のような巣など、社会性昆虫の巣の標本も見どころです！（逸見）



イベント案内

- ★ 4月
 - ① 虫タッチ：2日（土） 1回目/10：00～11：30、2回目/13：00～14：30
 - ② むしむしクイズラリー：3日（日） 1回目/10：00～11：30、2回目/13：00～14：30
 - ③ バックヤードガイド「飼育室ツアー」：9日（土） 13：30～14：30
 - ④ 虫さがし「春のめざめ」：10日（日） 10：30～11：30
- ★ 5月
 - ⑤ 虫講座「社会性昆虫のはなし」：1日（日） 13：30～14：30
 - ⑥ 虫タッチ：14日（土） 1回目/10：00～11：30、2回目/13：00～14：30
 - ⑦ 虫さがし「花に集まる虫」：15日（日） 10：30～11：30
 - ⑧ バックヤードガイド「樹木園ツアー」：21日（日） 13：30～14：30

新型コロナウイルス感染症の拡大状況により、中止・変更などの可能性があります。

※ ①②⑥以外は、すべて「事前申し込み制」です。

※ 「事前申し込み制」イベントの募集定員数は、各回とも25名程度。応募多数の場合は抽選となります。

※ 申し込み方法、締切日等の詳細につきましては、こんちゅう館のホームページをご覧ください。

こんちゅう館 News 新シリーズ Vol.8 春号 2022年3月1日

編集/発行 広島市 広島市東区福田町字藤ケ丸 10173 番地

〒732-0036 広島市東区福田町字藤ケ丸 10173 番地

TEL (082)899-8964 FAX (082)899-8233 HP <http://www.hiro-kon.jp/>

こんちゅう館 News

み～んな主役！！ 虫の館のスターたち ⑧

ニジイロクワガタ *Phalacrognathus muelleri*

クワガタムシ科 コウチュウ目



名前のとおり雌雄とも体は虹色の金属光沢に輝き、「世界一美しいクワガタムシ」といわれています。原産地はオーストラリア北東部・クイーンズランド州の熱帯雨林です。図鑑などで名前や姿を知っている方も多いと思われるのですが、本物を見ると感激されるようで、館内で歓声があがることもしばしばです。

形もユニークで、雄はクワガタムシとしては頭が小さく、大あごは上向きに曲がり、前胸が丸く盛り上がっています。比較的体が大きいのも魅力で、展示している雄の体長は通常 60mm 前後です。雌は大あごがやや上を向き、体にこまかな点刻があり、体長は 33mm 前後です（体長は個体差があります）。ニジイロクワガタは、成虫になってから 1 年くらい生きます。また、繁殖もさせやすく、産卵から 1 年以内で成虫になります。昆虫館としては、展示効果が高い上に飼いやすいというありがたい昆虫なのです。（松尾）

カバタテハ *Ariadne ariadne*

タテハチョウ科 チョウ目



カバタテハは、日本では南西諸島に分布するタテハチョウの仲間です。もともとは日本に分布していませんでしたが、台風による強い風に乗って海外から日本に飛んできました。

当館では本種の飼育にトウゴマ（トウダイグサ科）を用いています。トウゴマは実からこぼれ落ちた種から野生化するほど強い植物で、気温の高い初夏から秋にかけては勢よく大きな葉が茂り、飼育に困ることがありません。その反面、寒さにとても弱いので、冬は温室でトウゴマを育てています。しかし、温室で育てても真夏のような温度にならないので、葉の大きさが小さく、その数も少なくなります。そのため、冬の本種の飼育は、食草の在庫とにらめっこしながら、飼育頭数を調整しています。また、カバタテハは飼育ケージの扉や壁面など色々な場所で蛹になってしまうので、手入れをする時に蛹を潰してしまわないようにするのにとても神経を使います。

翅が表裏とも茶色で地味なチョウで、他のチョウの引き立て役のような感じですが、ご来館の際には主役として注目していただければと思います（佐藤）。

「池の水が無い！！」ある朝、出勤して驚愕しました。老朽化していたトンボ池の栓が壊れ、一夜にして池の水が全部抜けたのです。幸い、冬の間はほとんどの生物が冬眠しており、大きなダメージはありません。この水が抜けている期間を利用し、堆積した落ち葉の掻き出し、石垣の隙間から生えた樹木の剪定など、普段はなかなかできない作業を行いました。

春、補修が完了し、水で満たされたトンボ池では、冬眠から目覚めた様々な生き物が活動を始めます。ニホンヒキガエルの卵塊からは無数のオタマジャクシが孵化し、これを狙うイモリやクロゲンゴロウ、トンボのヤゴが集まってきます。さらに、それらを食べるアオサギも池の周囲を徘徊します。去年はコロナの影響もあり、ほとんど観察会を開けませんでした。今年こそは多くの人にトンボ池の生き物たちを見てほしいです。（逸見）



こんちゅう館の季節の虫

クビキリギス *Euconocephalus varius*

キリギリス科 バッタ目

成虫で越冬し、春に鳴くキリギリスのなかまで、昆虫館周辺では草むらや低木の茂みで見られます。「ジューッ」というとても響く声で鳴くため、しばしば機械の故障と間違われます。顎の噛む力が強く、枝などを噛ませて引っ張ると首がもげてしまうことが名前の由来です。（逸見）

